

子は親の鏡

とうとう夏休みに入ります。保護者の立場からすると家にいることが多くなる子どもとは、楽しく話せるだけではありませんね。私の息子も高校生なので家にいることが多くなるこの季節、毎年のことなのですが、妻と結構バトルが増えます。私はといえば、夏休みでも結構忙しく、いつもより帰りが早くなるくらいなのでそんなにバトることはありませんが、ダラダラしている息子を見て少なからずイラっとくるときもあります。そんなときにアメリカの教育学者ドロシー・ロー・ノルトの「子は親の鏡」という言葉で自分を持ち直すようにしています。有名なので知っておられる方も多いとは思いますが紹介します。

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもはやさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世の中は素晴らしいところだと思えるようになる

ドロシー・ロー・ノルト著「子どもが育つ魔法の言葉」より

保護者のみなさま、この1学期の間、多大なるご協力・ご支援、ありがとうございました。この夏休みには「ドロシーの精神」で子どもたちと楽しい時間をたっぷりお楽しみください。そして、2学期には愛情をたっぷり注いでもらってエネルギーに満ち溢れた子どもたちと出会えることを楽しみにしています。【ちなみに登校日は8月4日(月)ですのでお忘れなく。】